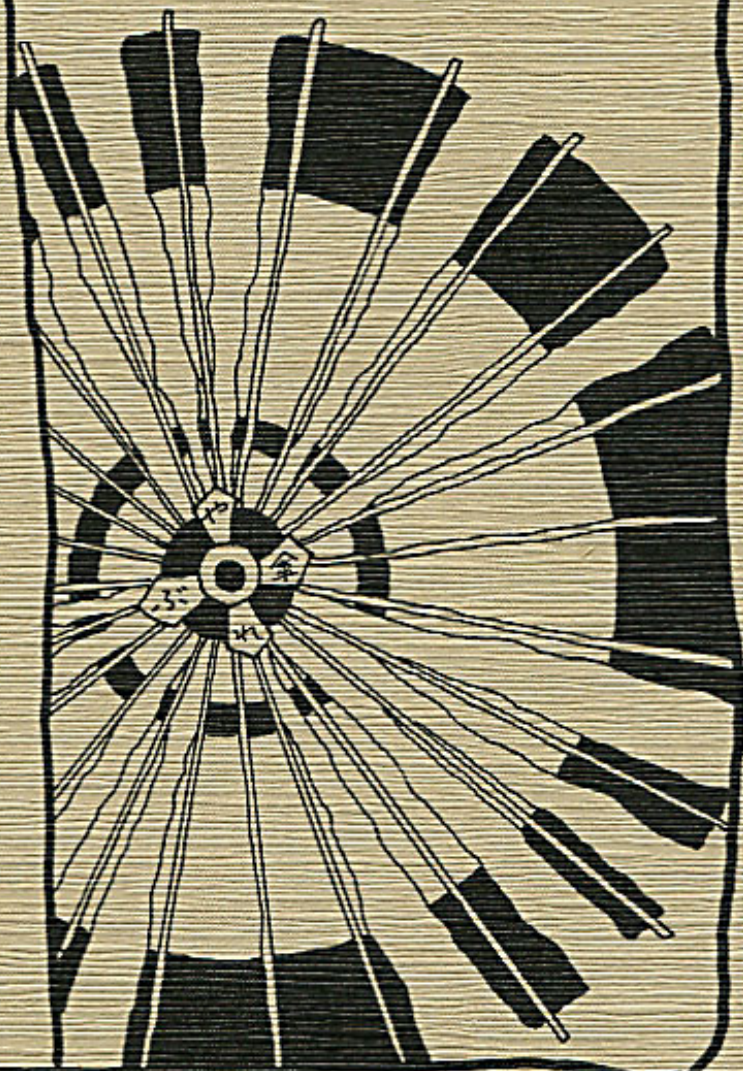


やぶれ傘



五十七号

二〇二〇年十二月

和紙貼りし筈に山栗売られけり	根橋宏次
米びつへあける新米手をそへて	きくちきみえ
破れ蓮午後の散歩に出でたれば	大島英昭
朱印所に座せる住職藤袴	丑久保勲
風といふ風にこゑあり暮の秋	安藤久美子
青空にぶらさがりたる柘榴の実	廣瀬雅男
アドバルーンあげて開店神の留守	秋葉貞子
人声の山へ消えけり木の实落つ	白石正躬
池の辺の雨となりけり十三夜	藤井美晴
用水に橋の架けられ赤のまま	渡邊孝彦
月の宿薙刀掛る長押かな	瀬島酒望
髪濡らす雨となりけり萩白し	國保八江
雪溪やこんこんと割る茹たまご	有賀昌子
数珠玉や流れの速き濁り川	天野美登里
今見し夢巻き戻しゐる夜寒かな	久世孝雄

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

冬晴れのマルマラ海に鵜の並ぶ	松村光典
石仏の傾ぎ合ひけり竹の春	秋山信行
天高し宅配便は駆け足で	岩藤礼子
身をよする片かげせまき籬かな	奥田温子
さはやかや通されし間の新畳	上林富子
夕風に一筋の秋交ざりけり	菊地葉子
新米の炊きあがりたるひとり分	忽那みさ子
異郷とをメールで結ぶ夏の果て	黒木東吾
長き夜や飛驒の地酒と和らふそく	齋藤朋子
読書する少女鬼灯鳴らしけり	高橋 均
便りありサフラン咲いた早よう来い	高柳正幸
国分寺跡の小道や秋桜	都丸スミ代
盆様は手打ちうどんの昼餉なり	貫井照子
年輪の浮きし杉戸や曼珠沙華	松本善一
地の塩を舐めてまた浮く秋の蝶	松本正生

鬼やんま

大崎 紀夫

津軽なり南瓜ごろりと路に出て
水切りの小石にぬくみ赤とんぼ
釣り人の背の眠さうに鬼やんま
茱萸の実や畑も墓も日を受けて
稲を刈りいまもマタギの村といふ

棒稻架の百に夕日の差しにけり
山廬へのだらだら坂や赤とんぼ
タンカーの積荷に釣瓶落しかな
岸に寄る葉屑枝屑雁渡し
まぶしきは朝日つぎつぎ鮭打たれ

上げ潮の中州の雀蛤に

悼 森 澄雄先生

秋蝶の近江の風に乘りにけり

木の实

白石正躬

床の間の壺に稲穂を五六本
初殻の燻るけむり雨上る
頂上は空の真中秋深し
木洩れ日を踏んで団栗拾ひかな
秋の月丸墓山にかかりけり
秋空や利根大堰の水しぶき
赤のまま伏したる野辺や昼の月
朝寒の鏡の顔を笑ひけり
冬隣木々は静かに葉を放ち
人声の山へ消えけり木の实落つ

丸墓山||さきたま古墳公園の古墳

十三夜

藤井美晴

甲斐駒を雲の過ぎゆく黍嵐
山羊鳴いて籬の角の紅芙蓉
墓毎にコスモス咲けり波の音
橋脚のあたり乱るる秋の水
学校の前を川ゆく星月夜
ひとの影人にまぎるる秋の昼
船離る埠頭のつるべ落としか
見送りしのち突堤の秋ともし
遠吠えのこゑや家郷の冷えまさる
池の辺の雨となりけり十三夜

赤のまま

渡邊孝彦

校庭の隅の畑の瓢かな
用水に橋の架けられ赤のまま
店先の水引草に森の風
秋乾く山路に獣臭ひけり
峠への最後の登り藤袴
信濃路は秋やD^で五^ご一^{いち}展示館
名月は櫛並木の坂上に
無患子の実は高枝に鴉鳴く
いつまでも降り続く雨南瓜食ふ
畝ごとに異なる野菜秋徼雨

月の宿

瀬島洒望

油蟬落ちてをりけり登校日
早稲の香や農道に立つ道しるべ
月の宿薙刀掛る長押かな
いち早く紅葉づるところ湿原に
潜水艦浮上して航く秋日和
板橋に節いくつもや水の秋
塩壺は古き益子や柿の秋
蔦かづらまだ新しき舫ひ綱
配偶者無しと書き込む夜長かな
コンテナを積みし貨車行く秋夕焼

萩白し

國保八江

たまさかの一人の夕餉虫時雨
蝸のこゑの中なるバーベキュー
そのたびに探す眼鏡や昼の虫
髪濡らす雨となりけり萩白し
竹林をざわつと風の九月かな
松虫のこゑは垣根の向かうから
水音に沿ひて行きけり蘆の花
花束のごと葱一束を貰ひけり
ひと跨ぎほどの流れや鴨来る
水神社の祠小さく木の実落つ

雪 溪

有賀昌子

雪 溪 や こん こん と 割 る 茹 た ま ご
掃 除 機 を 走 ら せ る 部 屋 蟬 し ぐ れ
秋 の 雷 恐 竜 展 を 襲 ひ け り
月 下 美 人 咲 く を 知 ら せ に 向 ひ 家 へ
長 き 夜 の 軸 の 墨 痕 あ を き か な
茄 子 の 馬 彼 の 日 の 話 な ど 少 し
い わ し 雲 と き ど き 礁 あ ら は な り
虫 の 這 ふ 布 袋 の 腹 や そ ぞ ろ 寒
水 音 の 止 ま ぬ 戸 隠 走 り 蕎 麦
木 洩 れ 日 の 秋 の 戸 隠 古 道 か な

数珠玉

天野美登里

カレー粉を炒めてゐたる残暑かな
山道を迷ひ鶉花の中
猫じやらし工事現場の柵こえて
数珠玉や流れの速き濁り川
素十忌や流れにかげの曼珠沙華
片結びせるへこ帯や秋祭
渡し場をはなるる船や胡桃の実
いち枚の小皿みやげに秋の旅
やや寒の駅のホームのアナウンス
カステラの底に粗目糖や長き夜

夜 寒

久世孝雄

拾ひきし木の実に糸を通しけり
町内に初の百歳豊の秋
今見し夢巻き戻しぬる夜寒かな
常緑の山裾の墓洗ひけり
田の中のエンジン音や鱗雲
天保の文字吉る墓石草紅葉
山寺の門前に買ふラフランス
山峡に固まる湯宿秋灯し
ほのかにも渋味の残る熟柿かな
逝く秋や賽の河原の湯のけむり

冬晴れ

松村光典

ついと寄りついと離るる赤とんぼ
野良猫の鼻に傷ある秋日和
遠足の弾ける子らにいわし雲
木犀トルコ再訪 六句に深呼吸する雨上がり
マリア廟オリーブの実の熟れてをり
舞ひ落ちるマロニエの葉の限りなき
風のまま冬の空掃くポプラかな
冬晴れのマルマラ海に鵜の並ぶ
冬晴れの羊散らばる広野行く
イオニアの空に冴えゆく三日の月

指は道青竹炎球
 先らは楽空煮天拾
 にははとを草のふ
 眼とい研垣空だ
 の散はぐ間にへとけ
 あるから腐に見田の
 如か心里え稗球
 くらとの柿米突児
 毛糸落葉作の柿米立や
 編か朱母ぬ蛇
 むなり朱母ぬ

阿久澤利男

声詩白天草石秋
 明仙桔平庵仏立
 の堂梗のののつ
 流添た伽手傾や
 れ水だ藍水ぎ愛
 てが念のの合染
 里時ぜののひ王
 のをよ跡鉢けの
 秋刻とやにり赤
 気み一葛萩竹く
 澄を言のののぬ
 むり寺原花春て

秋山信行

◇ 1~2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	26日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
2月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・極楽寺ほか	丑久保 勲
	23日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	26日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

2月20日(日)の吟行。集合は10時。JR鎌倉駅西口改札を出て江ノ電改札前。
吟行地: 極楽寺・成就院ほか。句会場: 大船・玉縄学習センター第2集会室。大船
駅から徒歩10分。タクシーを利用しても可。

◎ 連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ